

## 公立大学法人富山県立大学 入学式 理事長挨拶

平成 29 年 4 月 6 日（木）

アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、平成29年度入学式が挙行される、この良き日にあたり、公立大学法人富山県立大学を代表いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

ここに集う工学部 357 名、大学院工学研究科 89 名、計 446 名の皆さん、ご入学おめでとうございます。厳しい入学試験を突破され、希望に満ちた皆さんをお迎えし、大変うれしく、心から歓迎します。

そして、新入生の皆さんを応援してこられたご家族の皆様にも、お祝いを申し上げます。

また、本日は、石井富山県知事様、県議会の渡辺副議長様、射水市から夏野市長様、竹内市議会議長様、研究協力会の杉野会長様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

本学は、平成 2 年に工学系公立大学として開学し、平成 27 年に公立大学法人となりましたが、これを機に 6 年間の中期計画を立て、これまでの実績をベースに 3 つの目標を掲げました。

1 つ目は学生を大きく伸ばす教育力の高い大学、2 つ目は未来を志向した高度な研究を推進する大学、3 つ目は広く開かれ地域に貢献する大学を目指すこととし、教職員一丸となって取り組んでおります。

法人化にあたっては、県立の大学として、産業社会から求められる人材の育成と、若者の定着に一層貢献していくため、工学部の入学定員を 2 年間で 100 名増員する拡充計画を立て、工学部としては全国初の医薬品工学科を新設するなど、学科の拡充新設を積極的に進めております。

さらに、質の高い看護人材の確保と女性の県内定着を図るため、平成 31 年 4 月に定員 120 名で看護学部を開設することとし、その準備を進めております。

工学部の入学定員は、2 年前は 230 名でしたが、本年度は 330 名になり、本日 357 名が入学されました。さらに 2 年後に看護学部ができれば定員が 450 名になり、以前の約 2 倍の規模になります。

こうした学生の増加に伴い、大学としては、教員を大幅に増やして教育研究の充実を図ることとし、この 4 月に 23 名を採用しましたが、来年 4 月にも 20 名程度採用する計画にしております。

また、近く看護学部の校舎整備に着手するとともに、工学部については 9 階建ての新校舎を建設するなど、魅力あるキャンパス整備に努めてまいります。

石井知事様をはじめ富山県当局並びに県議会の皆様、協力企業の皆様、地元射水市など、多くの皆様の温かいご支援をいただきながら、しっかりと進めていきたいと考えております。

このように県立大学は、より魅力ある大学を目指しておりますが、新入生の皆さんには、ここで大いに学び、大学とともに、人として大きく成長発展を遂げていただきたいと思います。

本学は、モノづくりについて、学び、研究する大学ですが、ものづくり産業は、地方にあっても世界的な競争の中で、常に技術の進歩が求められています。どんな業種であれ、人々の生活をより便利に、心をより豊かにするニーズに応えられる企業が勝ち残り、事業を継続することができるのであります。そうした厳しい競争の中で、人々のニーズに応じていく中で、新しい技術、新しい文化が創られていくのであります。

皆さんにも、本学でしっかり学び、いろいろな経験を積んで、そうした人々の生活を支え、新しい文化を創る担い手となる技術者、研究者になるよう、努力していただきたいと思います。

そのためには、何事にも消極的にならずに、失敗を恐れず積極的にチャレンジしていくことが大事です。

そして、自分自身の長所短所を知り、長所を伸ばし、短所を克服するよう、こつこつと努力し、自己研さんに努めていただきたいと思います。

皆さんには若さという大きな武器があり、人生に残された時間はたっぷりあります。将来の可能性は無限大です。大いに期待しております。

この富山県立大学のキャンパスで、勉学やスポーツ、友人や先生との交流など、青春を謳歌し、悔いのない素晴らしい大学生活を送っていただくことをお願いしまして、私の挨拶といたします。

平成 29 年 4 月 6 日

公立大学法人富山県立大学 理事長 寺井幹男

皆さん おめでとうございます。